

会 議 録

1 会議名

令和2年度阿賀野市地域包括ケア推進会議

2 開催日時

令和3年2月3日（水曜日） 午後2時00分から午後3時10分まで

3 開催場所

阿賀野市役所 1階 第1・2多目的ホール

4 出席者（傍聴者を除く。）の氏名（敬称略）

- ・会 長：本田吉穂
- ・副 会 長：小野知夫
- ・委 員：斎藤和俊、阿部信夫、長谷川幸子、渡邊貴子、樋熊征夫、佐藤幸雄、横山祐子、佐久間栄一、米山和朗（民生部長）

（16人中11人出席）

- ・しばた地域医療介護連携センター：平野副センター長、辻社会福祉士
- ・事務局：高齢福祉課 宮尾課長、山寄課長補佐、地域包括支援センター 山崎センター長、地域包括支援センター阿賀野 山崎次長、清田係長、地域包括支援センター笹神 江口次長、橋本係長、披田野生活支援コーディネーター、

（計10人）

5 議題（公開・非公開の別）

- (1) 地域ケア会議からの地域課題と施策提言について（公開）
- (2) その他（公開）

6 非公開の理由

なし

7 傍聴者の数

1人

8 発言の内容

- (1) 地域ケア会議からの地域課題と施策提言について

議 長：議題（1）地域ケア会議からの地域課題と施策提言について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局 : はじめに、市の地域ケア会議について、資料3を参照し阿賀野市地域ケア会議の機能と位置づけ、会議体系に沿って、地域課題2つを選定した経緯について説明する。

事務局 : ①施策課題「受診・買い物などのための移動に手助けや支援が必要」について、資料4と資料5を参照し説明する。

令和2年度根拠データについては、介護度が軽い人は外出時の移動に困っているという介護予防・日常生活圏域調査結果等を報告する。

課題に対するあるべき姿として「高齢者が買い物や移動に困らずに生活できる地域」とし、居場所のボランティア交流会や元気づくりサポーター養成講座などの開催、かわら版の発行と広報誌や各居場所の通信などで、居場所のPRを行ったこと、コロナ禍で、買い物支援等宅配サービスを実施している市内商店について商工会をとおして情報収集し、チラシを作成し全戸配布などしてきた活動等を報告する。

実現のためにあったらよい資源としている「居場所のついでに買いもの」や「農産物出店」については、現在安田の居場所では実際に行われており、利用者からも喜ばれている。AI配車サービスの実証実験は、令和2年度に市の移送サービスの取り組みとして実施し、市内3つの法人の協力を得て、デイサービスの送迎車を利用し、居場所の利用者の送迎を行い、12月に2名の方が1回利用された。その後コロナ禍で居場所が休止しているため、その後の利用がない状況を報告する。

提言の内容と工夫として、拠点の居場所の維持継続のためボランティアの発掘・養成を行うことと、市全体の移動支援と生活支援のしくみづくりとし、元気な高齢者が生活支援の担い手として社会参加し活躍することは、高齢者にとっても生きがいとなり介護予防にもつながるため、今後も支え合い推進議員と協力し、引き続き取り組む。

また、市全体の移動支援と生活支援のしくみづくりとして、AI配車サービスの体制整備や、生活支援サービスの取組みについて支え合い推進会議と関係課と協働で取り組むことを説明する。

事務局 : ②施策課題「市民が介護予防に対する知識を得る機会が少ない」について、資料6と資料7を参照し説明する。

令和2年度の根拠データについては、総合計画市民アンケートより、元気で要介護状態にならず生活している高齢者の割合は81.2%と年々上昇している一方で、社会参加、交流している高齢者の割合をみると、令和元年37.6%で前年度より減少していること、70歳基本チェックリ

スト調査結果等を報告する。

課題に対するあるべき姿を「介護予防の必要性がわかり、介護予防に自ら取り組み、自立した高齢者が増える地域」とし、コロナ禍の自粛生活で外出が減り身体活動量が減るため、生活機能の低下防止、維持向上に積極的に働きかけを行っていく必要があり、エリアドゥと連携し「めきもり体操」のDVDを作成し、活用セミナーを開催した。今後は自治会等身近な小単位での普及を行う。

介護予防のための地域ケア個別会議から低栄養や口腔機能の低下の課題が上がり、そのようなフレイル対象者への介入が必要となり、3月には管理栄養士を講師に招いてケアマネジャーを対象に研修会を開催予定。口腔栄養についてのアセスメントシートを使いながら、その充実を図る。実現のためにあったらよい地域資源としている「居場所の送迎」については、現在ボランティア団体で行われている。

提言の内容と工夫については、70歳の市民にチェックリストを郵送して、参加機会の少ない対象者を把握し、介護予防事業に繋げることと、市民向け講演会の開催やめきもり体操DVDでの啓発活動、介護予防のための地域ケア個別会議を実施し、介護予防に自ら取り組む人を増やしていくことを説明する。

議 長 : 事務局の説明が終わりました。

施策課題一つ目の「受診・買い物などのために移動に手助けや支援が必要」についての説明がありました。これに関してご意見、ご質問があればお願いします。

委 員 : いろいろなところで買い物に行きたいけれども行けないという人が増えてきているような感じがいたします。今のところ、私の地域に関してみてみますと、お隣のお父さんが連れて行ってくれるなど、何とかなっているのですが、今後どういうふうになっていくのか心配です。

先日、広場が休みということで、ちょっと寄っていただけませんか、AIの配車サービスを利用したお二人とお茶を飲んだ際、その二人も、移動の手助けや支援について、今のところは近所の人が助けてくれて助かっているけれども今後が非常に心配だと言っておられました。今後、こういうことを何とか地域として送迎のボランティアをもうちょっと組織的にやっていく必要が出てくる感じがいたしました。

議 長 : ボランティアだけに頼らずに、誰でも利用できる移送サービスがあればというご提言です。事務局の方でこれに関する検討がございませうか。

事務局 : 今現在、居場所の方ではボランティアさんが送迎を行っていて、そのついでに買い物も一部行われていますが、人手不足や高齢ということもあり、なかなか先が見えづらい現状があります。

市としても、AI の配車サービスを使って何とかしくみづくりをできないかということで、今年度は、3か所の社会福祉法人の協力を得て、市営バスとデイサービスの車両を使っての実証実験を行っています。デイサービスの車両を使って居場所の送迎をやり始めたところが、コロナ禍で中止になってしまい、1回だけお二人が体験されました。

非常に良いしくみだと喜ばれていました。ただ、その実証実験が国の予算で2月に終わりになってしまい、今年度は1回だけの実験で終わってしまうので、なかなか検証ができない状況にあります。来年度につきましては、何とかそれがまたできるような体制がとれるように、企画の方と相談している状況です。

議長 : ありがとうございます。

委員 : AI サービスに、私どもの法人も参加させていただいております。

私どもの法人が居場所送迎のコールセンターを受けております。

利用されたおふたりは、事前送迎の予約電話をコールセンターにかけます。コールセンターに2件のコールが入ってきて、デイサービスの送迎途中でお迎えにあがって、居場所へ送るという非常に良いサービスです。しかし、当初の説明では、配車を全部AI がやっていただけというお話でした。それが現在は、私どもの担当が通常業務が終わってから、残業で1時間半くらいかけて、翌日の配車を全部打ち込んでおり、自動的にできておりません。

これが解消されて、翌日の利用者が全部、自動的に配車されてデマンドの方に飛んできてくれれば、もっとスムーズになり、非常に良いサービスになるかと思いますが、まだ、ソフトの開発の方が必要であると感じております。

議長 : ありがとうございます。現場の声を市役所もよく把握していただいて、より良いサービスになるように繋げていただきたいと思います。他にどなたか、施策課題1に関してのご意見がありますでしょうか。

なければ、2の施策課題「市民が介護予防に対する知識を得る機会が少ない」ということに関しまして、委員の皆さまのご意見ご質問がありましたら、お願いしたいと思います。

何かご意見ご質問がございますか。

委員：移送サービスと介護予防について、非常に良い地域課題の資料を書きあげてありますが、対象者は待っていると思うので、少しでもできるものから急いでもらいたいと思います。

委員：体操とかフレイルとか介護予防のことですけれども、参加する方としまして、参加したらメリットがある、例えばポイントがもらえるとか、参加すると何かある、楽しいというものがあれば、参加に繋がると思っています。

体操DVDを配るのも良いが、やったら何かもらえるおまけみたいな景品みたいなものはお金がかかるので、市役所の方で考えていただきたいと思いますけれども、参加したら、行なったら、何かあるという、何かの部分を今後とも検討していただきたいと思います。

それと、元気な高齢者というのが大好きなフレーズです。元気な高齢者の方の活躍が、とても大事なことだと思います。例えば、75歳くらいのフレイルの動きの悪い方がいたとして、80歳くらいの方が車を運転して迎えに買い物等へ連れて行ってくれ送ってくれる。そうすると、80歳の年上の方が「若いからがんばりなせや」というようなことばをかけることによって、75歳の方がふるい立つといいですか、俺ももうちょっと何かやらねばならないというような気が起きるかと思うので、元気な高齢者を役立てていただいて、1年でも2年でもがんばっていただき、そういった方にさっき言ったような景品だとか、ポイントだとかあげていただいて、お互いが盛り上がり、お互いやる気が出るような方法を考えていっていただければありがたいと思います。以上、意見です。

議長：今の意見に関しまして、市役所の方で何かありますでしょうか。

事務局：ご意見、ありがとうございます。

ポイントについては、市民講演会に参加していただいたときには、あがのポイントの50ポイントが付きます。教室等の参加でポイントのつくものもあります。

委員：あがのポイントの使い勝手が悪いので、意味のある方法をお願いしたい。期限が短いし、半年で消滅しないで欲しいです。

事務局 : 元気な高齢者の活躍をいかに役立てるかというところは、1の課題にもありますように、いかに若い世代の担い手を発掘していくかというところが、近々の課題であります。担い手を増やすために、今いるボランティアさんからの声掛けや、退職者の方が市役所に手続きに来た時に、ボランティアの案内チラシを渡すなど、地道な取組みで新しい担い手を発掘して行きたいと思っております。

今年度は、自治会座談会をコロナ禍により実施しなかったもので、なかなか新しい担い手の方とお会いする機会もない状況でした。今後は地域の座談会に出ていきながら、その若い世代の元気な高齢者の方と会う機会を増やして、地域の支え合いが大事だということを啓発しながら、新たな人材を発掘していければというふうに思っております。

ボランティアさんについては、それが生きがいにもなって、介護予防にも繋がるというところを啓発していくのも必要です。

実際に、あがのポイントが付くものもありますが、張り合いになるようなものができていくと良いというふうには思っております。

議長 : ありがとうございます。他にどなたかご意見ありますでしょうか。

委員 : うちの会社はまだまだ70歳以上の方が働いているので、ぜひうちの会社に働きに来ていただけませんかという希望もありますが、このボランティアさんは、高齢者の方の取組みで、70歳以上と考えていますか。私は障がいの方ともお付き合いがあるので、若い方でも働きたいけども働けないという方もいるので、そういうちょっと若い方のところ視点を持っていくのはどうお考えですか。

事務局 : ボランティアは、年代に関係なく、どなたでもと考えております。

委員 : ただ、そういう情報が、なかなか行きづらいというところもあるので、そういう情報交換ができるような連携的なものがあったら良いのかと思います。

買い物のところでも思いますが、若い障がいの方も買い物に行けない方がいっぱい居ますので、そういうところとも連携を取っていくのも今後の取組みにあったら良いのかと思います。

お年寄りの方はお話をすると、とても生き生きとしてくるので、そういうところも考えていかれたら良いと思いました。

議長 : ありがとうございます。

委員：ふれあい広場の代表を務めております。ボランティアの養成ということですが、安田は28名登録がありますが、私は団塊の世代です。私よりちょっと若くても、5年後、10年後を考えますと、これからの人をやはり何とか見つける必要を感じ、自分たちの人脈を介して入ってもらうように努力しています。イベントやバザー、日常行っているところに参加してもらって、現実をみてもらっています。

それでこの春先、2人ほど新しく入っていただけるようになっていきます。70歳になりましても、皆さん、元気で働いて居られます。

今日は、ふれあい広場の開所日でした。9時前に3人のボランティアが雪をのけたりして、大変なこともある状況です。特に安田は企業の場所を借りたものですから、公共施設でない分、除雪とかもありなかなか大変であります。

そういうのもボランティアは気持ち良くやってくれています。

確かにボランティアが少ないけれども、やはり、年齢を問わず、楽しんでもらえるように、自分たちの人脈を介して、知り合いをどんどん増やしていくしか当面ないように思います。ボランティアの皆さんでも、膝が痛い、腰が痛いとなれば、休まれる方も出ております。みんな広場は同じような状況を抱えていると思います。

広場を利用されている方が、健康体操とかやって、本当に喜んでいる顔をみると、我々も頑張らないといけないといった気持ちになりますので、一人でも二人でもそういうことをわかっていただき、現実をみてもらう以外ないと思います。

ポイントだけに走ると、良い面、悪い面が出てくると思いますので、余力として考えていただければ良いと思いました。

議長：ご意見ありがとうございました。

この議題は、2つとも非常に市民と密接な関係がございますので、今の意見を参考にして、これからも市役所の方には、がんばっていただきたいと思います。

(2) その他について

議長：(2)その他につきまして、事務局の説明をお願いします。

事務局：在宅医療介護連携推進に向けた取り組みについて資料8を照合しながら、経過報告をする。

阿賀野市では平成 26 年度から、医療と介護、福祉、障がいの支援を行う関係者で多職種連携研修会を年に数回ずつ行い、事例検討や看取りに関する講演会、研修を重ねるとともに顔の見える関係づくりを行ってきた。

今年度は、しばた地域医療介護連携センターからご協力をいただいて、ロジックモデルを活用した阿賀野市在宅医療介護連携施策指標マップの作成に取り組んだ。

今年度 8 月に、多職種が一堂に会してロジックモデルの活用意義について学び、阿賀野市の課題について検討いただいた。その後 9 月末に、医療と介護のコアメンバーの皆さんからも夜の研修会に集まっていたいただき、多様な視点からのご意見を頂戴した。そして、通所、訪問、看護職の各部門別研修会でも具体的な評価項目などを抽出していただいた。阿賀野市では、病院や在宅の他、ほとんどの介護施設で看取りが行われていることが地域の特徴。

そこで、在宅医療介護連携にかかる指標マップ 4 項目のうち、最初のとりかかりとして看取りの場面から考えてみることにした。在宅医療介護連携には、看取りの他 3 つの場面、退院支援、日常の療養支援、急変時の対応の連携が重要とされている。この中間アウトカムは A の最終アウトカムを達成するために必要な体制。在宅医療介護連携の最終目標として、A の住民のあるべき姿を、「自分が望む場所で暮らし、最期まで自分らしい生活を送ることができる。」とした。

A を達成するために、B の看取り場面では、「在宅でも施設でも本人が望む看取りの体制が整っている」と設定した。

多職種連携研修会や部門別、コアメンバーの研修会では主に C 初期アウトカム、これからの阿賀野市の看取りに必要なことと、D の個別施策を、C の達成のために取り組むことを話し合っていた。

研修会を重ねることによって、C の初期アウトカムの取り組みでは、B を達成するために、「1. 本人が最後の迎え方と場所を意思表示できる。2. 家族も意思表示でき、本人と相互理解し、承認・支援ができる。3. 本人をとりまく医療と介護の支援者が看取りまでの情報共有と連携体制の構築ができる。4. 医療と介護の連携した看取り支援ができる人材と事業所が増える。」にまとめることができた。C を達成するための個別的な取り組みとして D の 1 から 11 番までの必要な個別施策の取り組みを、それぞれの話し合いの結果をもとに集約した。

また、来年度は裏面の入退院支援、日常の療養支援、急変時の対応を検討していき、そのことによって、関連のある部分は変更になる。

来年度もこの指標マップの作成に取り組み、完成を目指す予定でいる

旨を伝える。

議 長 : ありがとうございます。事務局の説明が終わりましたけれども、ご意見ご質問があればお願いいたします。

委 員 : 資料8の裏面左側のアウトプットの番号、5番が抜けています。

事務局 : 失礼いたしました。番号が飛びまして、申し訳ありませんでした。

議 長 : 他にどなたか、委員の方でご意見等ございませんでしょうか。

委 員 : ケアマネの事業所と小規模のデイサービスをやっています。
D個別施策アウトプットをみると、私たちの日々の活動のことが非常によく書かれていて、この表によって、それがどういう位置づけなのかが見えて良かったと思います。
看取りというものがすごく大切な業務になってくるわけですが、その亡くなられていく方の意志表示というものを、きちんと関係者たちで、共有できているかというふうに、いつも意識しています。
阿賀野市のエンディングノートの活用というところがありますけれども、実際に活用されているのか、その辺の情報を聞かせていただきたいと思います。

事務局 : ありがとうございます。エンディングノートを阿賀野市で用意していますけれども、以前、看取りの講演会の後に、お配りしたことがありました。

ただ、普通にお渡しすると、とてもびっくりする方や、死ぬ準備をなささいというふうにとられる方もいらっしゃるのですが、どのように活用するのかというところは、説明してお渡ししているのですが、簡単に配れるものではないと思っております。それで、講演会等でお渡しする予定でしたが、コロナ禍で講演会やサロンの集まりが無くなったりしたことで、今年度はお渡しする場面がありませんでした。

ケアマネジャーの方には、阿賀野市にあることをお伝えしてありますので、必要な方は高齢福祉課地域包括支援センターに来ていただくようにPRをしておりますが、実際に来た方は、ほとんどいらっしゃいません。ぜひ、PRしていただきたいと思います。

まだ、200冊くらいあります。簡単にお配りすることは難しいので、ぜひ説明してお渡ししたいと考えていますので、その辺のPRをよろ

しくお願いします。

議長：ありがとうございました。どなたか、他にご意見等ありますでしょうか。

委員：最期の迎え方の場所や意思の表示というところで、今、施設とか病院で亡くなられた方のご家族とお話をしますと、今はコロナの関係で、一旦、入院したら、ほとんどが会えない、写真を撮ってもらって様子を聞く対応で、本当に最期だからその辺の意思確認をききたいという方がいても、検温を2週間して予約をして、会えるのも10分くらいと聞いており、この辺のところ難しい状況になっていると聞いております。コロナの関係で意思表示の確認をこれからどのようにしていけばいいのかと聞いているので、そういうところも考慮いただけたらと思います。

議長：医師会の方もかなり住民の方から面会ができないというふうに向って、結局は死ぬまで会えなかったという話も聞きますので、i Padとか、ツールを利用して、面会できることも医師会としては考えています。この前、しばた医療介護連携センターで、看取りの冊子を作成したことについて、説明いただけますでしょうか。

事務局：ありがとうございます。それは、看取りをすぐ目の前にしている人について、ご家族が心積もりできるように、作成していただいた看取りの冊子になりますので、すぐすぐ、皆様のところにお配りするものでは、ありません。

阿賀野市在宅医療介護連携施策指標マップのロジックの中に、本人の最期の迎え方と書いてありますけれども、すぐすぐ目の前の（看取りの）人にお話をするだけではなくて、支援から元気なときから、そういうお話を出せるような取組みをしていきたいと思いますということも含まれているというふうに、ご理解をいただきたいと思います。

議長：その冊子のことは、医師会で紹介されまして、人生の旅立ちに向けての、終末期の方とその家族に向けた冊子が作られたということでございます。

他にどなたかご質問ご意見等ありますでしょうか。

他に質問等ないようでしたら、事務局より何か報告や連絡事項等がありますでしょうか。

事務局：他には用意してございません。

議長：わかりました。その他、今日ご参加の委員の皆さまから、何かございましたら、挙手をお願いします。

【 挙手無し 】

議長：特にないようでしたら、本日の議題につきましては、ひととおり終了しましたので、以上を持ちまして、令和2年度の地域包括ケア推進会議の議長を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

9 問い合わせ先

民生部高齢福祉課地域包括支援センター阿賀野 TEL:0250-62-2510 (内線 2 1 3 0)

E-mail : hokatu-a@city.agano.niigata.jp